

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 泉整形外科病院 グループホーム 蘭
(ユニット名)	にこにこ
所在地 (県・市町村名)	仙台市泉区上谷刈字長命1番
記入者名 (管理者)	中沢律子(管理者)高橋 蘭(計画作成担当者)佐藤綾
記入日	平成 20 年 10 月 9 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に3ユニット共通の運営理念が掲げられており、これを基本として各ユニットの理念が作られている。また、現状にあわせ理念の見直しも行っている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化を図ること、ケアの原点である理念に基づいてケアにあたることを各スタッフが意識できるよう、4ヶ月に1度日々の取り組みについて振り返りをおこなっている。振り返り用紙を用いることでスムーズに行え、各スタッフの意識も高まってきている。また、ケアプランは理念に基づいて作成するよう意識するために理念を持参し参考にしてしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々へは運営推進会議や毎月の広報誌を通して、ご家族へは理念を目のつきやすい玄関先に掲げ、ケアを通してご理解いただけるよう日々取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩へ出る機会が多い為、近隣の方に会う機会は多く挨拶や世間話などから顔なじみの関係となり、花や野菜をいただいたり、畑をみていただくなどの付き合いができています。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	平成18年度から町内会に参加しており、地域の行事には積極的に参加している。また、中学生の職場体験の受け入れや小学校の学習発表会の見学をおこなったりし、地域の方との交流に努めている。調味料は近所の商店から配達をしてもらうなど、自然な形でもお付き合いができています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を通して、できることはないか地域の方とはなしあったり、地域の行事に参加している。また、普段出来ることとして散歩中にゴミ拾いをし、少しでもお役に立てるよう努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月に一度、外部サービス評価の会を開催し、改善に向けての取り組み状況を話し各家同士でアドバイスをを行っているが、全スタッフが評価の意義の理解、改善に向けての取り組みの進行状況など把握できていない状態である。	○	会の議事録に目を通すだけでは、理解しづらいこともあるため、勉強会を通し、全員が意義を理解し改善に向けての取り組みを考え実行していけるようにしていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議の場で、入居者様の生活状況や行事について報告をおこなっている。また、外部評価での改善に向けての取り組みについても説明し、意見等いただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の開催する講習会へ積極的に参加し、サービスの質の向上に生かされるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ職員から、伝達講習を通し他職員も学ぶことは出来ているが全職員が理解することは難しく、活用されている方がいるも理解度は低い。今後も理解に努めていく必要がある。	○	積極的に外部研修へ参加し、理解を深めていかなくてはならない。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修だけではなく、内部研修でも接遇についてを学び接遇から高齢者への関わりを振り返る機会を設けたり、事例を通して虐待についてを学ぶなど力をいれて取り組んでいる。その為職員間でも声かけや関わりについてお互い注意しあうことも増えてきている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には重要事項、契約書を充分に説明しご理解いただいている。また、解約時にもご理解いただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からの言葉をきちんと受け止め、改善するべく話し合いを会議やミーティングでもうけている。また、日頃から入居者の声に耳を傾けたり、思いを伝えやすいような関係作りをおこなっている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来所された際に、日ごろの様子等お伝えしている。また、詳しい様子についてはプラン説明時にお伝えしている。緊急時についてはその日のうちに電話連絡をし、異動時には広報誌を通してお伝えしているが前もって直接お伝えしていく必要がある。金銭管理については、領収証をつけることで明確にしている	○ 異動に関しては、広報誌を用いるだけではなく前もってご家族に説明をし納得していただけるように話し合いの場をもつようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口、責任者第三者委員会を電話番号と共に明示している。ケアに対する意見等についてはプラン説明時にお聞きし、ケアに反映させている。ご家族が来所されることが多い為、その都度ご意見等ないかお聞きしたり、意見箱を設置している旨を広報誌を用いてお伝えしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議を通して職員の意見を聞き入れたり、年度末には個人面談を実施して職員の意見を聞き反映に努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態の変化に応じて、職員の動きを見直したり勤務の調整を行っている。行事や通院がある際には前もってゆとりをもった勤務になるよう調整をおこなっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動によるメリット、デメリットを充分に考慮したうえでおこない、異動の際には研修期間をきちんともうけている。また、離職者がでないようなチーム作りとして、スタッフ間でもチームワークを大切にしやすい環境で働けるよう工夫している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の関わりの中で、個々に場面ごとに指導を受けている。また、前スタッフが1年に1回は外部研修を受ける機会を設けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの管理者たちと連絡を取り合い、見学を兼ねて交流の場を持ったり、行事への参加や研修を通してスタッフ同士も交流を図ることが徐々に出来ている。今後も積極的に交流の場を設け、お互いに高めあえるよう、全スタッフで意識していきたい。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々の関わりの中で、スタッフに話を聴いたり悩みはないか等声かけをおこなっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各家の勤務状況、問題点等を把握し、スタッフと共に問題解決、向上に努めている。また、外部研修へ行く事で、向上心を持って働くことができるようにしている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問調査時、ご本人より率直な思いを聞き取り入所後のケアに活かしている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問調査時、ご家族の不安、要望等お聞きしている。また、入所後も来所時にはさり気なくお話を伺ったり、こちらでのケア方法等お話しをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いを受け止め解決策と一緒に考えたり、適切な支援を提供できるよう努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス提供前にご本人、ご家族にお伝えし納得し同意を得て提供できるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な支援とならないよう、入居者の思いを考えて思いやりのあるケアを提供できるよう勉強会やミーティング、理念の振り返りを通してスタッフ間で学んでいる。同じ目線で関わりを持つことで、自然に喜怒哀楽を共有できている。また、日々の関わりの中で料理や知識を教えていただく場面も多く、学ばせていただいている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された際には、少しでも話しをする時間を設けるように努め、日々の様子をお伝えすると共に、より良い生活を送っていただけるよう入居者様の事をお聞きしヒントをもらったり、一緒に考える事で共に支え合う良い関係が築けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が頻繁に会いに来てくださるご家族が多く、今までと変わらない良い関係が築けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた方や場所を把握できるよう、ご本人やご家族から情報を得て、できる限り関係が継続できよう努めている。(電話や手紙の代筆、ドライブなど)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれの入居者が他入居者のをよく見ており、時折衝突してしまうこともあるが時には優しく手を差しのべるなど、お互い支えあっている。また、孤立してしまうことのないようスタッフ間で入居者の性格等考慮しながら、会話の橋渡しをするなどして関わりあえるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所された後も広報誌を送ったり、行事に参加していただくなどしたり、こちらから施設に面会に行くなどし、入居者様、ご家族ともに楽し上げた関係が途切れないようお付き合いをさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して、ご本人が望む生活をさりげなくお聞きしたり、可能であればカンファレンスに参加していただき、把握に努めている。困難な方に関してはバググランドを参考にしたり、ご家族にお聞きしたりしたうえで、本人の気持ちになって検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりご本人、ご家族より情報を集め、入所後も日々の関わりの中で情報収集し、ケアに役立てている。また、知れた情報を共有できるよう記録に残している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	小さな変化に対してもスタッフ間で情報が共有できるように生活記録やセンター方式等の用紙を用いて工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	バググランドやここでの生活の様子、心身の状態等全体像を把握し、ご本人、ご家族の思いをくみ取った介護計画を作成できるよう努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、現状に即した介護計画となる様につとめている。3ヶ月毎にご家族に介護計画の実施状況を説明し、署名、捺印をいただいている。その実施状況については経過記録に記録している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録はSOAP方式を用いて、ケアの実施状況、結果、アセスメントが出来るようにしているが、アセスメントが弱く次へと活かしきれないところがある。情報の共有については、こまめに日誌に記入するよう日々スタッフ間で声かけしあっている。	○	アセスメントの方法について学ぶ機会を設け、ニーズや問題点の背景、原因を明確にし根拠のあるケアを実践していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行事等を通してご家族と一緒に外出出来る機会を設けたり、外泊などは要望に応じて対応している。又医療面においても家族の希望に合わせた対応を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の中学校の体験学習や実習の受け入れを行ったり、行事の際にはボランティアを依頼している。また、消防署の協力の下避難訓練や緊急時の対応について学ぶ機会を設けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の状態に合わせて、適切なサービスが受けられるよう連携をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的開催している運営推進会議等で、助言をもらったり相談をし連携をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医がそれぞれおり、定期通院時にはご家族を通して日々の心身の状況をお伝えし、帰宅時には診察内容をお尋ねしている。また、要望があればスタッフが付き添い受診している。緊急時にはかかりつけの病院に通院、搬送、協力機関である病院に受診できるよう連携がはかれている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	それぞれの入居者の主治医に直接相談をしたりご家族を通して症状の報告、相談を行い連携をはかるよう努めている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常時看護師がおり、生活を共にする事でお一人おひとりの健康状態を把握できている。スタッフもこまめに報告、連絡、相談を行い適切な対応をとっている。24時間体制ということもあり、ご家族も安心されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院期間中も頻繁に様子を伺いにいたり、こまめに病院との連携をとり、退院後の対応についてもミーティングを重ねスタッフ間で情報の共有をおこなっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期におけるアンケートを全家族に行い、看取りに関する指針を定め説明している。ご家族、医師との連携を密にしスタッフ間でも情報の共有に努めている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	最後までご本人らしく生活していただけるよう、事業所内でできること、スタッフに出来ることを話し合いとりくんでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族や関係機関と十分に話し合い、情報交換を行ったうえで実施し、心身のダメージを最小限にする努力をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修で接遇や虐待についてを学び、声かけや関わりが尊厳を損ねることのないよう気をつけているが、友達感覚のような言葉遣いや上から目線の態度になっていることもあり、スタッフひとりひとりが意識しなくてはならない。	○ それぞれのスタッフが各自意識してはいるが、声掛けや関わりかた等スタッフ全員でお互いのケアを見て注意しあったりアドバイスをしていけるようにしより意識を高めあえるようにする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ お一人おひとりに合わせての声掛けやコミュニケーションをとるなかで、思いや希望の把握に努めているが、自己決定の難しいかたにたいしてはスタッフの判断にかたよってしまいがである。	○ あらゆる場面でのケアにおいてもひとつひとつの声掛けをしっかりと行い、ふとした表情を見逃さないようにしていく。また、返事を待つ姿勢を意識してケアにあたるよう努めていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○ できるかぎり入居者の声を大切に希望を取り入れ、ゆとりを持って関わられるよう勤務の見直しもおこなったが、ケア以外の余暇時間の過ごし方については工夫が必要である。例として、希望のあった場所へでかける、好きなことや得意なことを取り入れるなど。	○ 1日の少しの時間でも本人らしい一面がみられるよう、おひとりおひとりの思いにしっかりと耳を傾け実現できる様、スタッフ間でもそれぞれの思いを把握していかななくてはならない。
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○ おひとりおひとりらしい身だしなみ、おしゃれができるようスタッフ間でも声掛けしあっている。散髪に関しては月に1度の訪問理容時にご本人、ご家族の意思のもと行っているが行き付けの美容室へ行かれる方もいる。季節や気温に合わせた衣服はもちろんのこと、外出時にはお化粧品をしたり、マニキュアを塗るなどしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	○ 野菜きりや盛り付け、配膳などできるところは一緒に行っている。食事中はテレビを消して会話を楽しんだり時には静かに召し上がっていただいている。介助にて召し上がるかたにも、できる限り自分の手で召し上がっていただいたり、側で見守りスタッフも一緒にたべている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○ おひとりおひとりの嗜好を把握し、食事時やおやつ時に提供したり、広告を見て食べたいものを購入したり、一緒に買い物へ行き選んで頂いている。食べることが楽しみの一つであることを各スタッフで理解し食を楽しんでもらえるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットを使用されている方へも、尿漏れなくトイレで排泄していただけるよう時間を見て声掛け、誘導を行っている。また、ご本人の表情や言動にサインが無いかもよく観察しタイミングを見て声掛けをおこなっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂を沸かし、好きな時に入っていただくことができる様にしている。こちらから声掛けをして入浴していただく場合でも本人の意向を確認し、なかなか入浴されない方にも気持ちよく入浴していただけるよう音楽を掛けたり声掛けを工夫することで気持ちよく入浴していただくことが出来ている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人のその日の体調を見て、声かけし休んでいただく時間をつくったり、夜間眠れない方へは日中の活動を工夫できないかをスタッフ間で話し合ったりご家族を通して主治医と連携をとり眠剤を処方してもらうことでストレスとなることなく休んでいただいている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お一人おひとりのバッググラウンドを参考にしながら、得意なこと、出来そうなことをしていただけるような場面作りをこころがけてはいるが、役割、楽しみ事に関しても入居者によって支援に偏りがある。	○	スタッフ全員が入居者ひとりひとりの現在持っている力や関心のあること、好きなことをしっかりと共有するためにセンター方式などを用いて情報の整理を行い、実行に移せるようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へ出かけることで社会とのつながりを感じていただけ、お金を使う事が自信にもつながると考え、ご本人の希望や力に応じてご家族との相談のもと所持、使用できるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物へは毎日出かけるようにしており、希望があれば一緒にでかけている。また、近隣への散歩や中庭での日光浴を促している。外へ行きたいかたへも無理に引きとめず、自由に戸外へ行けるよう施設はせずに見守りをおこなっているが、主に外出されている方が決まっており、なかなか外へ出られない方が多い。	○	天気のいい日にはできるだけ外に出るように働きかけをおこなっている。それぞれの入居者様が平等に外出できるようスタッフ間で話し合い、声かけを行っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中で行きたいところを聞き出している。行事の時などに入居者の要望を聞き入れたり、ご家族と外食や温泉などにでかけられている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用していただいている。はがきや手紙の返信を代筆したり、写真を同封してこちらの様子をお伝えするようになっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気持ちよく過ごしていただけるように挨拶やお出迎えなど基本的なことをしっかりとできるよう勉強会を通して学んだり、状況を見てスタッフが間に入って会話をつないだりして工夫をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や勉強会を通して身体拘束についてを学び、きちんと取り組むことができている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠をすることは拘束していることと捕らえ、理由が無い限りは日中は施錠はせずに自由に入出入りできる様になっている。正門に関しても同様に夕方18時までには開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間でも声かけしあい、入居者の居場所や様子を把握している。長時間おひとりで自室にて過ごされている時には訪室したり声掛けを行い気に掛けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の自室にあるものを把握できる様にし、おひとりおひとりの力に応じて危険物をこちらで預かったり、使用時には見守りを行うことで注意をはらっている。また、危険物管理マニュアルを作成し、危険物の管理方法についての統一をはかっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を通して学んだり、その都度看護師やドクターからの指示を仰ぎ実践で学ぶこともある。また、緊急時対応マニュアルを目に付き易い場所に置き、夜間帯などに目を通すようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	2年に1度、近隣の消防署に依頼し救命救急講習を受けている。また、勉強会ではシュミレーションをしながら急変時の対応について学んでいる。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力を得て日中、夜間想定での避難訓練をおこなっている。今年度実施する避難訓練はご家族、地域の方の協力を得て実施する。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン説明時に、日常生活の中で起こり得るリスクについても合わせて説明している。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	定期的にバイタル測定を行い、いつもと違うような時には大事をとって休んでいただいたり、スタッフ間で状況を把握できる様声掛けしあい異常の早期発見に努めている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬に支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様全員分の最新の処方箋ファイルに綴じて、目的、副作用等についてをすぐに確認できるようにしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んでいただいたり、日頃から水分や繊維質のものを摂取していただけるよう意識している。また、便秘がちのかたへは腹部マッサージや起きがけに冷水を飲んでいただいたり工夫している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居所様の力に応じて毎食後に口腔ケアを実施、声掛けをおこない清潔保持に努めているが、実施できない方もおり、そういった方へは食後にお茶をすすめている。また、ひとりひとりの口腔状態にあった支援ができる様、歯科医とも協力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量に関してはチェック表を用いることで把握し、お一人おひとりの状態、力に応じて摂取し易いような工夫をしたり好みのものを把握してすすめたりしながら十分な食事、水分量が確保できるよう支援している。2ヶ月に1度栄養士に食事の試食、盛り付けを見ていただき助言をいただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルが作成されている。感染症予防についての勉強会を2年間医師により学び、その際学んだことを生かしながらケアにあたることができている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具やふきんを毎日消毒し、衛生管理に努めている。食材については新鮮なものを業者に配達していただき、食の会を通して食の見直しや業者への要望を取りまとめ業者の方をまじえて話し合いを行うこともある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正門は常に開放しており、玄関も日中は施錠せずに自由に入出入りできる様にしている。玄関周りには季節に応じた花を植えており、温かい雰囲気を出せるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビをつけたままにしない様にしたり、日差しが強い時には早めによしずをしたり暗くなってきたら早めに照明をつけるようしている。また、季節の花を摘んできて飾ったり、窓を開けて鳥の声や虫の音が聞こえるようにして季節を感じていただけるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて自由にくつろげるようにしたり、食堂のテーブルを離すことで、食事以外の時間は好きなところに座っていただけるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やなじみのあるものを持参していただいている。家具など持参できなかったかたには、写真を飾ったりして居心地よく過ごしていただけるように工夫をしている。また、必要に応じては馴染みの物を持参して頂いていただけないかご家族にそうだんをしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝入居者が起きる前や毎食後などにこまめに換気をし臭いがこもったりよどみがないように気をつけている。室内の気温や湿度は季節に応じた適温になるよう、こまめに気温や湿度を確認するようにしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーになっているが、レールのちょっとした段差でもつまずきやすくなっているため見守りを行っている。また、居室内においても、行き来する導線に障害物がないように確認している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりの力を見極め、個々に応じた自律支援についてをカンファレンスやミーティングで話し合い、過剰なケアにならないようスタッフ間で統一したケアを心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭にパラソルやベンチを置き、季節に応じて花を植えたり、畑を作った事で外に出たいという気持ちに働きかけ楽しみながら四季を感じていただけるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

高齢者ケアに対して地域の方や学生に少しでも理解して頂けるよう当グループホームで実習出来る体制作りを行って参りましたが今後も認知症ケアを理解して頂ける様取り組んでいく。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 蘭
(ユニット名)	ほのぼの
所在地 (県・市町村名)	仙台市泉区上谷刈字長命1番地
記入者名 (管理者)	(管理者)中沢律子、(R)鈴木浩、(SR)鈴木千賀
記入日	平成 20年 10月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「蘭」としての理念の他に「家」ごとに理念を掲げ、それを基に介護計画を立てていく事で、その人らしく暮らせるように支援している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	目の付きやすい所に理念を掲示しており、職員一人ひとり3ヶ月に一度、理念に対しての振り返りを行っている。	○ 今後カンファレンス等を活かし全スタッフが理念を共有し活かされるよう努めていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	今まで通りにその人らしく生活できるような理念を掲げ、広報誌を通じて地域へ発信したり、自治会の活動へも参加の機会を増やしている。また、運営推進会議を定期的開催し家族・地域へ理解を仰いでいるが十分ではないと思われる。	○ 更に、広く理解して頂けるように今後も広報誌や運営推進会議を通して努めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	自治会の活動や散歩などで挨拶や会話をされる事はあり、行事参加もお願いしているが、気軽に立ち寄って頂けるまでには至っていない。	○ 小さな食事会やお茶会、交流会など、規模の小さなところから地域の方々と関われる機会を設けて付き合いを広げていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会の活動には出来る限り利用者も一緒に参加し付き合いを広げられるようにしている。また運営推進会議も定期的実施し、地域との関わりをもっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会の活動に男性職員が手伝いに行ったり、清掃活動にも積極的に参加している。他に地域で役立つ事がないか自治会を通じて話をしているが、特に要望は聞かれない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の指摘事項について毎月取り組みや振り返りを実施、進捗状態を月一度の「サービス評価の会」で話し合い生活の中で活かされるよう取り組んでいる。	○	今後も全スタッフが自己評価及び外部評価の意義が理解でき生かされるよう取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しており、自治会長、地域包括支援センター、ご家族の方々に参加して頂いている。ホームの状況等を説明し、ご家族から意見等をホームの運営に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の開催する研修に積極的に参加したり、研修センターより研修生を受け入れ、同職種の人と交流が深められるようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修や勉強会の実施により学ぶ機会を設けた事で、職員全体の理解は深まっている。関係する家族にも説明を行っているが、理解は薄い。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会の実施により学ぶ機会を設けた事で、職員全体の理解は深まっているが実際のケアにおいて無意識的に利用者の声に耳を傾けられない事が多々ある。	○	手が離せない場合でも別の職員にお願いする等、出来る限り立ち止って利用者の声に耳を傾けられるよう、ミーティングで話し合い職員間の意識を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分な時間をとって頂き、疑問点や不安点を確認しながら分かりやすいよう説明行っている。また分からないところは繰り返し説明行う事で理解、納得して頂いている。退所時についても入所時同様、事務員と一緒に明確に説明行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し気軽に意見、要望や苦情を入れ易いようにしたり、日々の関わりの中で利用者一人ひとりと接する時間を設けて思いの把握に努めている。利用者の思いは介護計画やミーティングでの話し合いという形で反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に職員から積極的に生活状況の様子をお伝えしている。面会に来られない家族には広報誌や介護計画の説明時に詳しくお伝えするようにしている。ただし頻繁に連絡し過ぎると何かあったのでは？と不安を与えてしまうので注意している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し気軽に意見、要望や苦情を入れ易いようにしている。また面会時、介護計画の説明時、運営推進会議などでも家族の声に傾聴し解決できるよう努めている。苦情受付先として担当者、解決責任者、行政機関、第三者委員などを設置している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時現場や月数回のミーティングやカンファレンス、月1回の全体会議などで職員間の意見交換や提示できる場を設けており、反映できるよう努めているが、反映されない面もある。	○ 全職員が気兼ねなく意見や要望を発言でき、反映されるような現場作りに努めていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	通院、行事など事前に予定が分かっている場合は予め勤務者を多くしたり、利用者の動きに合わせて一日の時間帯で必要と思われる所に勤務者を多くするなど随時ミーティングで話し合っていたが、一時期離職者が続いた事で対応が難しいところもあった。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一時期、離職者が続いた為、利用者一人ひとりに合わせて説明を行い、理解を得られるように努めた。大きな混乱はなかったが職員の入れ替わりが多く、少々不安な思いさせていたように思われる。	○ ミーティングでケアの方向性について話し合い、共通意識でケアにあたる様に努めてきた。度々職員同士で意見を交し合う事でモチベーションを持続し、離職者を最小限に抑えるよう努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に施設内研修を行い、入職後は段階に応じて施設外研修に年一回必ず参加するよう取り決めている。施設外研修後は施設内、勉強会において伝達講習を開催し、学んだ事を他の職員に伝えられるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者間等のネットワーク作りを積極的に行っており、又施設外研修やグループホーム協議会に積極的に参加している。また、勉強会、相互評価等の活動にも取り組み、サービスの質の向上を目指している。	○ 今後もネットワーク作りを行い相互関係保ちサービスの質の向上に生かしてしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ミーティングやスタッフと個別に話す機会を設け、個々の悩みや思いをくみ取り、解決にむけてのアドバイスをを行うなどストレスが軽減されるように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ミーティングやスタッフと個別に話す機会を設け、個々の努力や実績、勤務状況を把握しつつ、次のステップにむけてのアドバイスをを行うなど向上心を持って働けるよう配慮している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談や入居後も日々の関わりのなかで本人が不安な事や求めている事を遠慮なく言えるよう働きかけながら、それを暮らしに反映できるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談や入居後の面会時、介護計画の説明時にご家族と話す機会を持ち、希望要望や不安な事を話しやすいように働きかけている。また、それを暮らしに反映できるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々のお話の中で本人とご家族のニーズを見つけ、同意を得ながら介護計画書に反映させている。また、様々な意見を言って頂けるように家族との交流を深め信頼関係が築けるよう努力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を知ってもらう為に事前に見学をして頂き、本人の意見や不安な事に対して分かり易く説明行ったり、ご家族からの情報を参考にして全スタッフが関わり持つ事で、馴染んでいけるよう配慮している。ご家族に対して作成した介護計画書を説明し理解を得られてからサービスを開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重し、一方的な関わりとならないように利用者主体の生活が送れるように各スタッフ意識している。また、利用者個々の得意分野が暮らしに活かせるように介護計画書も作成、実施している。	○	利用者主体の生活である事を意識し続けられるように、ミーティングなどで各スタッフ話し合い、都度再確認していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や介護計画書の説明時にご本人様の近況を詳しくお伝えしたり、スタッフ側で悩んでいる事を相談しながら、信頼関係を積み重ね、ご家族も共に支え合う仲間としてご本人に関われるように配慮している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来て頂けるよう勧めたり、行事参加を勧めたりしながら、ご家族がご本人様とより良い関係が築けるよう努めている。本人との折り合いが悪く、なかなか来所されなかったご家族に対しても粘り強くお話しする事で以前より来所される事が多くなった。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々利用者の思いの把握に努めているが、身体への不安等もあり、外出の機会は減少している。ご本人様が本当に大切にしたいと思っている人や行きたいと思っている場所に行けるように支援していく必要がある。	○	身体的に不安がある場合は、馴染みの方にホームに来所して頂けるよう働きかけ、関係が途切れないように工夫していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの性格や人格を大切にし、趣味や得意な事など共通するもので他利用者との交流が図れ、良い関係が築けるよう橋渡しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事例としてはないが、ご本人様やご家族と相談し、希望要望や意見を聞き取ったうえで思いに添えるようにし付き合いを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、個々の好み・希望に合わせた働きかけを行う事で利用者も思いを口にされる事多くなった。思いに添って介護計画を立て生活の拡充が図れている。	○	常に個々の思いを引き出せるようにスタッフも意識し続けられるように、ミーティングなどで各スタッフ話し合い、都度再確認していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談で収集した情報を整理すると共に、入居後もご本人様やご家族から話しを聞いて把握に努め、自分らしい生活が送れるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活の様子を記録に残しながら、心身状態に変化があればすぐに気付けるよう観察、バイタルチェックを都度行い把握するようにし、又異常時は家族、管理者、リーダー報告し早期対応に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的に行い、ご本人様との関わりの中で気付いた事などを介護計画に反映させている。また、ご家族への説明時にご家族様の意見も伺い、介護計画に反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に行うカンファレンスで見直ししているが、現状にそぐわなくなった場合は随時見直しを行い、ご家族に説明後実施している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録をSOAP形式で記入し、プランの実施記録が分かり易いようにしている。また、アセスメントの記入がある事で情報を共有化できたり、介護計画書の見直しがし易くなっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様やご家族様の要望に応じ、通院の送迎や緊急時の通院対応など柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事の際、市民センターの地域ボランティアの協力を仰いだり、避難訓練の際は消防署員の指導の下、協力を得て実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、同系列の病院の訪問診療を受けたり、訪問理容サービスを利用するなどして、ご本人様の意向に沿うように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を利用して地域包括支援センターの職員と話し合う場を設けており、長期的なケアマネジメント等について協働できるよう努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切に、通院時にはご本人様の様子を詳しくお伝えして、希望されている病院を受診できるよう協力している。また、緊急時は同系列の病院の協力を得ていつでも対応できるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの意思を尊重し、失礼のない声かけや関わりに努めている。また勉強会にて虐待についても学ぶ機会を設けており、職員一人ひとりが利用者の誇りを守れるように意識付けしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの症状に合わせて、ゼスチャーを含めながら分かり易い説明を心がけている。また、利用者も意思表示し易いように、職員が常に聴く姿勢や雰囲気作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で話し合いを重ねる事で、少しずつだが利用者の希望に添った活動が行えるようになった。しかしながら上手く意思表示が出来ない利用者に対してはあまり希望に添えていない可能性もある。	○利用者主体の生活である事を意識し続けられるように、ミーティングなどで各スタッフ話し合い、都度再確認していきたい。また、利用者一人ひとりの本心を引き出せるような雰囲気作りや働きかけをしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月一回の訪問理容を利用して利用者一人ひとりの希望に添ったおしゃれが楽しめるようにしている。手足の爪、口腔内、ひげ、整髪などの日々の身だしなみについては出来ている時と出来ていない時がある。	○手足の爪、口腔内、ひげ、整髪などの身だしなみが出来なかった時でも、後で時間をみて出来るように、常時意識するよう努めていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの得意分野(調理・盛り付け・配膳・片付け)を把握し、活かせるように場面作りをしている。家事が不得意な利用者でも味見を頼むなど、食事を共に楽しめるよう努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者と一緒に買い物へ行く事で、好みの食べ物や飲み物を選び、購入する事ができているが、利用者の好み優先で栄養バランスが崩れないように心掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	食前・食後や排泄チェック表を活用し、自尊心に配慮した声かけやトイレ誘導を行っている。極力トイレで排泄して頂くことを支援し、夜間おむつの方でも日中は普通の下着にパットを使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や体調を考慮し、ほとんど毎日のように入浴して頂いている。お湯の温度も個々の好みに合わせて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の疲労感や体調に考慮して適宜、休息を勧めており、ベッド以外にもソファなど本人が安心して休める場所で休息を取って頂いている。また、夜間寝付けない方には話を聴いたり、暖かい飲み物を勧めるなど、リラックスできるよう努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のニーズの把握に努め、それを介護計画書に含ませる事で、家庭菜園を作ったり、目的を持って出掛けたりするなどの楽しみごとや気晴らしが増えてきた。個々の力を活かした役割についても職員が場面づくりを行い、実施できている。	○	楽しみごとが一部の利用者だけに偏る場合があり、個々の利用者が均等に楽しめるよう職員も意識していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者と一緒に買い物へ行く際、利用者自身が自由にお金を持参し、好きな物を購入できるように支援している。また、家族の要望に応じて必要な場合、財布の残金確認をし記録につけている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりが同じ頻度で買い物などの外出ができるよう支援している。また、近隣施設にもお茶のみなどで遊びに行ける機会を設けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブや行事などで利用者の意見を参考にして、普段行けない様な場所へ遠出する機会を設けている。	○	家族と共に外出できる機会が減少している為、家族参加型の行事を企画していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望を尊重し、いつでも電話をかけられるように支援している。自分でかけられない場合は職員が代わりにかけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は門や玄関を開放しており、職員も明るく声をかける等、気軽に訪問できるよう雰囲気づくりをしている。また、お出迎えやお見送りで気持ち良く来訪できるよう努めている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて虐待や身体拘束について学ぶ機会を設けており、各職員が少しずつ理解を深めている。また、勉強会を通じて自分のケアを振り返る事にも繋がっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は門や玄関を開放しており、鍵をかけないようにしている。職員も利用者の行動を妨げないように関わっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声かけをしあい、利用者の動きに合わせて見守りの位置を変えている。利用者の行動を妨げないよう、プライバシーに配慮し、自然な形で関わられるように工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの症状に合わせ、危険物の管理を本人に任せたり、本人了解のもと職員がお預かり場合もある。さり気ない訪室にて危険物の確認も行っている。また、共同で使用する危険物については所定の保管場所を決め、保管方法を工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書を活用し事故防止の為の改善を行ったり、勉強会を通じて職員の知識を深められる機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の救急救命講習を受講したり、救急マニュアルを作成し勉強会で学ぶ機会を設け、知識を深められるように努めている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の消防署の協力のもと、定期的に非難訓練を実施し、職員・利用者共に参加して防災意識を高めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時や介護計画書の説明時に本人の生活の中で起こりうるリスクについて、ご家族に説明し十分に納得して頂けるよう努めている。また、症状に変化が見られた際もご家族にその旨お伝えし、ご家族の意向を確認しながらリスクが拡大しないように努めている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週三回のバイタルチェックの他、表情や食事量などにも気を配り、日頃との様子の変化や異変に注意している。いつもと様子が違うなど違和感がある時は職員同士で情報交換し、必要に応じて常勤の看護師にも相談している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の処方箋をファイリングしており、職員は薬の目的や副作用などについて理解をしている。服薬については必ず一人ひとり手渡しし、飲みきりを目視で確認後、空き袋を一箇所に集め、確実に飲みきった事を確認できるようにしている。症状に変化があった場合は常勤の看護師、ご家族、主治医と連携し、指示を仰ぐようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況に応じて牛乳やヨーグルトやバナナ牛乳を口にして頂いたり、室内外で歩行運動を勧めるなどの働きかけを行っている。また食前後にトイレに座って頂いたり、腹部マッサージ、ウォシュレットによる刺激効果も実践している。どうしても便秘が酷い利用者には主治医に相談し下剤を処方して頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に個々に合わせた歯磨きの声かけや義歯の洗浄、うがいなどの支援を行っているが、自分でできる利用者に対しては声かけだけで確認は行っていない。	○	口腔ケアの確認ができていない利用者に対しては職員と一緒に歯磨きを行う事で、確認できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや状態に合わせた盛り付け、形状、食事量で提供し摂取しやすいように配慮している。食事の進みが良くない方には好まれる物を補食として提供するなど、気持ちよく食事して頂けるように心がけている。水分補給に関しても一日二回のお茶の時間と食事の際に利用者の声を聞いて好みの物を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防対策の勉強会や感染予防マニュアルの作成で職員の知識を深めており、利用者とともに手洗い、うがい、必要に応じてアルコール消毒やマスク着用を行い、予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日台所用の漂白剤を使用し、調理器具や食器類の消毒を実施している。食材については業者から到着後、速やかに冷蔵冷凍庫内に保管し、調理の際も必ず充分な手洗いしてから行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中、門や玄関を開放しており、来訪者が入りやすいように職員も明るく声かけるようにしている。家族や知人、ボランティアの方が来られるが近隣住民が来られる機会は少ない。	○	地域住民の方とは挨拶や行事へのお誘いなどで交流を深めているが、もっと親しみを持って頂けるように小さな食事会やお茶会、交流会など、規模の小さなところから地域の方々と関われる機会を設けて付き合いを広げていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の流行歌などの馴染みのある音楽を流したり、ベランダやリビングに季節の植物を飾ったり、居心地の良い空間づくりに努めている。また、季節の飾り物(正月飾り、七夕飾り、クリスマスツリーなど)で季節感が味わえるように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファやテーブルを用意し、友人同士で談笑される姿が見られている。また、廊下にはマッサージチェアも用意。個人で使用されリラックスされている姿も見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人に馴染みある家具や道具や寝具、趣味とされている物(本、習字の道具、花の鉢植えなど)や家族の写真などを自由に持ち込んで頂いて、本人にとって居心地のよい環境づくりを行っている。また、本人が他にも必要としている物がある場合、ご家族に相談し、持参して頂く様をお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床時や天気の良い日、匂いがこもっている時は窓を開け、積極的に換気を行っている。温度調節については利用者と相談しながら衣類での調整を勧めているが、場合によってはエアコンや床暖房を使用し快適に過ごせるように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーとなっており、段差が少なく至る所に手すりが設置されており、転倒防止の工夫がされている。利用者も手すりを使用され、自分の力で歩かれている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の利用者に合わせて、居室やトイレ、リビングなどが分かり易いように、大きく目立つような表示の仕方を工夫している。また掲示物に関しても、利用者の目線になるように低い位置に掲示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターに季節の植物を育てたり、中庭にはベンチを設置してくつろげるようにしてあり、利用者が自由に楽しめるように配慮している。また、裏庭には畑を作って農作物を育てており、家庭菜園を趣味とする利用者が率先して活動されている。		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

3家合同の行事を年3回程度行い、家族同士が話し合う機会が自然に生まれ、家族間で悩み等相談されている場面も多く見られ、交流が持たれている。また利用者は毎日ラジオ体操を行っており、天気の良い日は中庭で軒合同で一緒に行ない利用者様同士の交流も図れるようにしている。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 泉整形外科病院 グループホーム 蘭
(ユニット名)	いきいき
所在地 (県・市町村名)	仙台市泉区上谷刈字長命1番
記入者名 (管理者)	中沢 律子(管理者) 佐藤 歩美(計画作成担当者)
記入日	平成 20 年 10 月 9 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	各ユニット独自の理念を掲げているが、利用者や地域のニーズに合わせて地域生活の継続が図れるよう年一回の見直しを図り取り組んでいきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	更に生かされた理念を心掛け、ケアプランに取り入れ日々の生活に密着される様、全スタッフで取り込めるように努力していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	今後も地域での共生を重視し運営推進委員会議や地域の行事参加や、ランボティアの方々を通してより理解して頂けるよう働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	地域の方々との交流が深まるよう日々声を掛け合い交流の場を増やしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事(お祭りのやぐら立て等)時、当ホームの内容を理解して頂き有効に活用して頂けるようよう声がけを行い役立てて頂いている。	○	今後も地域に少しでもお役に立てるように話し合い、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価、又自己評価を定期的な会議の中で改善策や取組内容、結果を話し合い意義を理解し、取り組んでいる。また全スタッフが自己評価に取組意識を高めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議時に指導内容や外部評価結果を報告しメンバーの方より質問、意見、要望を出していただけるよう話しかけ、それを受けるようにしている。また利用者の状態、行事等をお伝えたり報告しケアの質の向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	仙台市教育委員会の中学生の体験学習の受け入れや認知症実践研修の外部研修の受け入れ、今後看護学校の実習受け入れ等も行っていく方向で、高齢者ケア、認知症ケアに対して、より理解していただけるよう努めている。市町村へは区役所に運営推進会議、開催の案内状を数度窓口にて手渡ししているがまだ会議への参加していただいていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修を受け、施設内伝達講習会を行い共有化を図っているが、まだ必要な対象者がいないため理解度が薄い。	○	勉強会、研修等を通して職員は、制度に対する理解を深められるよう取り組んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内の勉強会を通して全スタッフが参加し理解を深めてきたが、まだ生活内において気付かない面、知識不足の面があるかと思われる。	○	定期的に学ぶ機会を設け意識づけにつとめる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込みの時点で内容を十分に聞き取り、入居者に対して合う施設選びをお勧めしている。また入所時は重要事項、契約書を説明し十分理解していただき、質問も随時受けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活内で随時、利用者の言葉に耳を傾け想いを受け止めている。また表情等から読み取り不安げ時も本人から表出しやすいよう声がけを行うようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	生活状態については家族の面会時随時報告を行い、また毎月の広報誌等通して理解して頂いている。軽い身体状態の変化時についても家族に連絡をとり報告、相談しながら行っている。金銭管理は入居者、家族の希望により事務所管理で毎月明細書を郵送し、又定期的に残高確認を行っていただいている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情BOXを作り、玄関の目のつくところに設置し、気軽に活用していただけるよう工夫している。また面会時など家族から意見等話しやすい環境、雰囲気作りをし機会を多く設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2回個別で話し合う機会を設け職員の提案、意見を聞き反映させるように配慮している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	生活リズムや行事などに合わせて調整をしている。時間変更などの検討もあれば話し合いを行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し必要最小限での異動を心掛け行なっている。利用者に不安を感じないように配慮をしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ全員が研修が受けられる機会が持てるよう調整している。内部では、毎月勉強会を実施。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会入会し相互間の情報交換や近隣ホーム長間のネットワーク作りを行っている。外部研修に参加、受け入れ等により交流を図りサービス向上が図れるよう取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個別に話す機会を設け日々の積み重ねからのストレスが軽減配慮しているが、蓄積されないようするには難しい。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況を把握し状況に合わせた労いの声掛けを行い、個人がスキルアップできるよう研修等参加しまた外部での気分転換ができるよう配慮している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一人一人の言葉に耳を傾け日常の会話、表情などから察し受け止めるよう配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時、電話などご家族と話す機会があるとき少しでも安心していただいた上での利用となるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の求めているものや、希望に沿えるような希望を聞いた上での計画作りを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人のペースや周りとの兼ね合いも大切にしながら随時家族に相談し協力を得てサービスを実施できるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々生活する中で、時間を共有し笑ったり怒ったりという感情を出すことによりお互いを支えあいながら築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人による状況等を随時伝え情報交換しその中で喜怒哀楽を共にして良い関係を築けるように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お互いの関係を理解した上で面会時はゆっくりすごしていただいたり会話ができるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に連絡、面会などがあり本人との時間を過ごしていただけるよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に利用者同士が関わりあっているが時には、強くぶつかり合うが共有スペースで楽しく過ごせるよう努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了しても継続的な関わりが持てる様心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の思いに沿い会話などからも意向を把握できるよう心がけている。困難な方にはその方の気持ちになって対応。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にバックグラウンドを作成したり家族からも情報を得てこれまでの暮らしについて理解するよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活のなかで、その人の過ごし方や感じていることなどを知るよう努めている。リズム表など活用。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを持ち本人と家族の希望を取り入れたケアプラン作成を心掛けている。日常会話などから伺った上で必要であるケアなど検討しながら作成している。	○	更に全スタッフ間での情報が共有できアイデア、意見が活かされ統一ケアがなされるよう密にしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的話し合いを設け見直しを行っている。変化、急変時随時本人に合ったプラン作成を行ない実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、生活記録、報告書等を利用し日々の様子を記録している。SOAP形式にし、一目でわかるようにしている。介護計画の見直しに生かされている部分もあるも記入漏れもある。	○	工夫はしているが、記入漏れがあり情報が途絶えてしまう事がある。一人一人意識をもって取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、通院などご家族、本人の要望に応じて対応している。また、協力機関も近くにあり、曜日や時間に関係なく随時対応できる体制にあり柔軟な支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員などで民生委員との協力また、中学校、幼稚園との交流、ボランティアに来ていただき協力していただいている。消防訓練や救急救命講習も実施されている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力を頂いているケアマネジャーなどとの連絡をとり、相談の機会をもち情報交換の場を設けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などにて、情報交換や意見などをいただいている。また近隣施設においても気軽に声掛け合い交流を深め地域活動にも同行していく方向である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医をもっており家族を仲介として日々の様子を伝えて医療を受けている。必要に応じてスタッフも同行し状態説明し、主治医との連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理に努め外部に漏れることのないようにしている。また、一人一人に対しての言葉対応については気を配っているが時に過度の言葉掛けになっていることもみられる。	○ 職員の言葉使い、態度を改める必要があるため一人一人自覚をもち定期的に見直し場を設け言葉使いなどに対してはその都度注意できるよう伝える。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人の思い、希望にそった生活を心がけているが主体が職員になりがちなどときあがる。	○ 本人の思いや感じている事をよく受け止め本人主体のケアを行う。一人一人の意識を高めるよう努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一人一人のペースや個性を考えて生活して頂いているが、スタッフの体制によって時々職員側の都合によって、1日がながれることがある。	○ 職員の都合で利用者を振り回すことの無いように対応し本人の考え思い等を配慮し耳をかたむけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々に合わせて行きつけの美容室や訪問美容など行われている。その人らしい身だしなみに努めているが、ときどき汚れているときがある。	○ 常に服装の状態に気を配り、季節に合わせた、また感じられる衣服選びをして頂けるように配慮していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者により、準備や片付けなどを一緒に行い食事を一緒にすることで楽しみながら召し上がることができている。つきに回の手作りを実施。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物おやつを提供する際に利用者に希望を聞きながら提供を楽しんでいただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表に記入し活用しながら本人の行動や表情の変化に合わせて実施されている。便秘の際には、冷たい水、牛乳など提供し腹部マッサージを行うなどしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日実施している。大まかな時間設定はあるが、本人の意思を尊重し入りたいときに入らせている。本人に声掛けタイミングをみながら入浴を促している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後の昼寝をもうけている。毎日の生活や疲労などに合わせてゆっくり休んでいただけるよう促している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩や買い物など個別的に外に出ることでの気分転換図がられるよう行っている。楽しみごとは前もって知らせ(行事)ドライブや散歩をこころがける。	○	屋内での楽しみが少なく思われ、又個別の活躍役割にも差がある為、一人一人が活躍できるよう生活歴から發揮出来ることを再度見直しながら支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、事務で行っているが、外出や買い物の際には本人のお金が自由に使えるように対応している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に定期的に出掛けられるよう支援している。※外出される方、されない方に大きく差が有る。	○	同じ方ばかりではなく普段でられない方にも声がけし外出をうながしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力、行事の際に出掛けている。日々の生活の中で、家族の協力、行事の際に出掛けている。日々の生活の中で、家族の協力、行事の際に出掛けている。日々の生活の中で、家族の協力、行事の際に出掛けている。	○	外食の機会など希望に合わせて他家とも協力しながら行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話するといったことはないが、声掛けしたり家族から連絡があったときなどに会話していただいている。職員、サポートしながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族からは、来所しやすい。落ち着く。といった声がかかれた。面会の際には、本人だけではなく、皆と過ごす共有の場で楽しく過ごされたり自室などでゆっくり団欒されている。気軽に訪問されているとおもわれる。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はない事が前提でケアに当たっている。施設外研修や、施設内の伝達講習、勉強会などでもお互いに理解を深めているが身体機能状況の低下に伴い、行動制限と思われる部分もある。	○	個々の行動がバラバラになってしまう事が多く見られるが、拘束に当たらない取り組みをし深く学ぶ必要がある。ゆとりあるケアについて取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者本位で、行きたい所には一緒に行く、または行ける状態、環境作りを心掛けている為、居室や玄関には鍵を掛けないケアを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら常に様子見守りを行い、所在確認を実施している。またお互いに声掛けあい安全に生活して頂けるよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状態に応じて、危険性を感じるものは、家族の同意の上で撤去したり本人に管理していただくなど個別に対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会やマニュアルがファイリングされておりいつでも見られるようになっているが実際の事故が防げず同じような問題が多く起こっている。	○	改善点を全ての職員が念頭にいれ取り組んでいく必要がある。同じ事故が起きないように見直し、自覚が必要。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に学ぶ機会が有りまた、マニュアルをいつでも目を通せる状態になっている。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣消防署の立会いの下、年に2回利用者、職員共に避難訓練を実施しておりマニュアルも作成し常に目の通せる場所にある。また、委員会を2ヶ月に一度開催し実地状況、問題点を把握し今後の安全対策に努めている。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状況の変化時、家族面会時やプラン作成時などでリスクについて話しをしており家族からの意見、提案などもいただいている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の本人の様子や健康チェック表などを使用している。気付いた時点で速やかに報告、相談などをし、記録、口頭により送ることになっている。	○ 気付くことが遅いこともあるため日々本人の様子、訴え、表情を見ながら、早めの発見、変化、異常に敏感になるよう対応していく必要が有る。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方一覧表を作成し薬について理解しようとしているが、変更なども多く、全て理解することは困難であるが理解するように努めている。また症状の観察は生活の中で随時行い異常時はバイタルチェックを行い異常の早期発見に努めている。	○ 職員が意識を持ち、個々に確認意識付けを行えるよう取り組んでいきたいと思う。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	様子を見ながら下剤、冷たい水、牛乳にて対応している。毎日、体操を促し少しでも体を動かすように取り組んでいる。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の力に合わせて、毎食後の口腔ケア、1日ごとの義歯洗浄、口腔ケアの体操を実施している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食事量や大きさを調整し盛り付けを行っている。又随時お茶等促しており、各自でも飲んで頂けるようポットを傍に置きいつでも好きな時に飲めるよう工夫している。個別の水分量が把握出来るよう表を用いて記入し1日が分かるように記録している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設内勉強会にて感染症の勉強会を医師より受け理解している。それを基に予防法も理解し実施している。又マニュアルを作成しいつでも確認しながらできるようにしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器及び調理器具の管理マニュアルがありそれに基づいて除菌を行い、食材についてもマニュアルに沿って冷蔵、冷凍保管している。又冷蔵庫内は定期的に確認し、内容が分かるよう透明な容器を利用したり長期保存が無い様になっている。		
、 英活				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中正面玄関を解放しており、自由に出入りできるようになっている。入口には案内図の看板が設置されており分かりやすい様配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース及び各居室は定期的に清掃を行い清潔にしている。テレビや音楽等のボリュームに配慮し、他の音にも雑音とならないようにし居心地良く過ごして頂ける様にしている。陽ざしはカーテン、夏の暑さはよしずを調整し、また所所にカレンダーを貼り季節、日時が確認分かる様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	書斎等の共有スペースにソファを置き、1人であったり、気の合った利用者同士でゆっくり過ごせるよう工夫し、その時々に応じて自由に過ごして頂けるようにしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時より使い慣れた家具や馴染みの物を使用する事を勧め、環境の変化を最小限にし戸惑いを少なくし居心地の良い環境作りを行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度、湿度調整は毎日の記録に残し全スタッフ意識できるようにしており、外気温との差を5度C以内と空調管理に配慮している。又臭いに対しても定期的に空気の入換えを行い状況に合わせて応じている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有及び各居室トイレや廊下、浴室に手摺が設置されており、身体機能低下が出現しても自立支援が出来る様になっている。又段差が少ないバリアフリーで転倒予防が図れる構造となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の出来る事を見極め自立支援を心掛け、本人の出来る事は一緒に喜びと自信に繋がる様工夫している。混乱や失敗に対しても予防を図ると共に出会ったとしてもそれぞれ合わせた声がけを行い、対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダがあり家庭菜園や花を植え入居者と一緒に楽しみながら手入れをしており、又裏に畑があり農作物を作り収穫を楽しんでいる。中庭にはテーブルセットを設置し皆で日向ぼっこや行事、お茶時間に活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)